

教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	やまだ みほ 山田 美保	所属・職名	健康福祉学部 社会福祉学科・准教授
専門領域	社会福祉学、保健医療福祉	学位称号	学士（社会福祉学）．1998（平成10） 修士（社会福祉学）．1999（平成11）
最終学歴	2010（平成22）九州大学大学院医学系学府社会環境医学専攻医療システム学（博士課程） 単位取得満期退学		
資格・免許等			
教育上の能力に関する事項			
担当科目	相談援助の理論と方法、相談援助演習、保健医療サービス、社会福祉援助技術実習指導 多文化ソーシャルワーク		
教育方法の実践例	1 教育方法の実践例		
教材の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向授業の実践（平成19年4月～） 西九州大学健康福祉学部社会福祉学科「社会福祉援助技術論Ⅱ」（専門科目、3年次配当、選択必修4単位）、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」（専門科目、2年次配当、通年期、選択各2単位）、「医療福祉論Ⅰ」（専門科目、3年次配当、選択2単位）、「保健医療サービス」（専門科目、2年次配当、選択2単位）では、国家試験受験に必要な知識の獲得に加え、学生が専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供している。学生からは、緊張するものの、自分の意見（理解）が正しいか確認できてよいという意見が多く聞かれている。 ・マルチメディア機器を活用した授業の実践（平成20年8月～） 西九州大学健康福祉学部社会福祉学科「社会福祉援助技術論Ⅱ」（専門科目、3年次配当、選択必修4単位）、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」（専門科目、2年次配当、通年期、選択各2単位）、「医療福祉論Ⅰ」（専門科目、3年次配当、選択2単位）、「保健医療サービス」（専門科目、2年次配当、選択2単位）では、パワーポイントを主としたマルチメディア機器を活用した授業を行っている。パワーポイントは、配布資料と連動させ、講義の進行を視覚的に確認できるようにするとともに、事例やテキストの読解前において、理解のポイントを示すことで学生の理解度を向上させるのに有効的であった。 ・ビデオ記録を活用した教育方法の実践（平成19年） 西九州大学健康福祉学部社会福祉学科の「社会福祉援助技術演習Ⅰ」（専門科目、3年次配当、通年期、選択必修2単位）において、面接技術の習得方法として、学生がインテーク面接を想定して作成したシナリオに基づいたロールプレイを行う様子をビデオで録画し、その記録を視聴しながらフィードバックを行う教授法を実践した。フィードバック後に記録された学生の振り返りシートから、本教授法により、学生が面接における自身の態度やスキルを客観的にとらえることにより、自己覚知および面接技術への理解を深めていることが認められた。 なお、本演習の取り組みについては、平成18年度社会福祉学科FD研修会にて報告した（平成19年2月）。 ・学生ピア評価を活用した教育方法の実践（平成21年4月～） 西九州大学健康福祉学部社会福祉学科の「社会福祉学演習Ⅱ」「卒業論文指導」（専門科目、3・4年次配当、必修2・4単位）では、卒業論文作成のために図書紹介（3年次）、卒論計画発表、卒論中間発表、卒論発表（4年次）を行っている。これらにおいては、学生が各課題の遂行で求められる視点を明確にするとともに、他者の活動を客観的に評価する技術を身につけるために、発表資料とプレゼンテーションの構成や内容についてピア評価（含むポジティブフィードバック）を用いた教育を実践した。また、ピア評価の結果は、教員による評価とともに数値化して発表者の振り返りの材料とした。この取り組みについて、学生からは「課題へのモチベーションが向上した」や「自己改善につながった」など肯定的な意見が聞かれた。 		
教育改善活動等			

	<p>2 教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義における教材資料 講義ノートとして活用できる配布資料を作成し、学生の主体的な学習を支援している。学生の授業評価では、「資料がわかりやすい」「ノートがまとめやすい」と評価されている。また、制度や統計については、できるだけ最新の情報を視覚的に理解しやすいよう構成した資料を作成している。 ・相談援助演習Ⅲ～Ⅴ、社会福祉援助技術実習指導における教材および授業計画 複数教員で担当する演習・実習科目において、授業の質を一定に担保することを目的とし、担当教員で協議をしながら授業で使用する教材および詳細な授業計画を作成した。また、学生評価においても、共通の指標に基づいた評価を行った。
--	--

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

--

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

《 平成19年度～平成23年度 》

著書・学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	発行又は 発表の年月
(学術論文)			
1 家族介護者の介護ストレス緩和要因に関する文献的考察	共著	永原学園 西九州大学・佐賀短期大学紀要 第37号 pp.1-9	平成19年 3月
2 社会福祉援助技術現場実習の事前教育に関する基礎的研究Ⅰ	共著	永原学園 西九州大学・佐賀短期大学紀要 第37号 pp.61-69	平成19年 3月
3 社会福祉援助技術現場実習の事前教育に関する基礎的研究Ⅱ	共著	永原学園 西九州大学・佐賀短期大学紀要 第37号 pp.71-77	平成19年 3月
4 Coping strategies, care manager support and mental health outcome among Japanese family caregivers	共著	Health & Social Care in the Community 16(4) pp400-409	平成20年 7月
5 保健・医療ソーシャルワーカーの教育・研修ニーズに関する一考察	共著	九州社会福祉研究 33 1-10	平成20年 9月
6 ターミナルケアにおける「医療・看護・福祉」の連携の課題～お互い何を求め、何ができるのか～社会福祉学の立場から	単著	日本看護福祉学会誌 14 (1) 23-27	平成20年 8月
7 Family caregivers and care manager support under long-term care insurance in rural Japan.	共著	Psychology, Health and Medicine 14(1) pp73-85	平成21年 1月
8. ソーシャル・サポートの受容と家族介護者要因との関連	単独	社会環境論究 4 277-291	平成24年 1月
9. 緩和ケア病棟におけるソーシャルワークに関する質的研究	共著	西九州大学健康福祉学部紀要 42	平成24年 3月

<p>(学会発表)</p> <p>1 家族介護者が持つ要因が介護支援専門員の支援におよぼす影響—面接場面でのソーシャルサポート機能に着目して—</p> <p>2. 緩和ケア病棟におけるソーシャルワークに関する質的研究</p>	<p>単独</p> <p>単独</p>	<p>日本ソーシャルワーク学会第27回大会</p> <p>日本医療社会福祉学会第21回大会</p>	<p>平成22年7月</p> <p>平成23年9月</p>
<p>研究助成等</p>	<p>1 永原学園教育研究基金助成（平成18—19年度） 「実習施設との協働型実習教育の確立に向けた研究」研究分担</p> <p>2 永原学園教育研究基金助成（平成19年度） 「保健医療領域における社会福祉実践教育プログラムの開発に向けての基礎的研究—実践困難感との関連要因に着目して—」研究代表</p> <p>3 文部省科学研究費補助金 基盤研究（B）平成21年度～22年度 「緩和ケアにおける『生』重視のソーシャルワーカーの支援機能に関する実証的研究」（課題番号：19330129）研究分担</p> <p>4 文部省科学研究費補助金 基盤研究（C）平成22年度～24年度 「『生活者』としての患者・家族に焦点を置いた緩和ケアソーシャルワークに関する研究」（課題番号：22530660）研究代表</p>		
<p>学会及び社会における活動等</p>			
<p><所属学会> 一般社団法人日本社会福祉学会 日本ソーシャルワーク学会 日本医療社会福祉学会 公益社団法人 日本医療社会福祉協会 日本保健医療社会学会 日本老年社会科学会 社会環境学会 佐賀県医療ソーシャルワーカー協会</p> <p><社会活動等> 佐賀県都市計画審議会 都市計画区域マスタープラン専門部会 「性」と「生」を考えるネットワーク・佐賀</p>			